

報告タイトル(*日本語と英語両方ご記入ください)

革命暴力の遺伝子——マルクス、レーニン、スターリン、毛沢東へと続く暴力論の系譜 (試論)

The Genetic Code of Revolutionary Violence: A Genealogy of Theories of Violence from Marx through Lenin, Stalin, and Mao (A Tentative Essay)

氏名(所属)

中兼和津次 (東京大学、東洋文庫)
Katsuji NAKAGANE (University of Tokyo and Oriental Library)

要旨(800字程度)

社会主義革命では革命前と後とですさまじい暴力が行使された。スターリンによる大テロルはとくに有名であるが、こうした暴力と暴力思想はマルクス・エンゲルスの「革命暴力肯定論」に始まり、レーニンからスターリンへ、そして毛沢東へと変異を遂げながら継承され、伝播していったのではないかと。本論文では、このような革命暴力の実態を整理し、暴力遺伝子が作動する要因・メカニズムは何かを探ろうとする。「遺伝子」はどのような変異を遂げてきたのか、なぜ、またいかなる形で伝播・継承されていったのか、暴力に関する社会主義革命の本質と性格を把握することが、両国の現在の体制、つまりロシアにおけるプーチンの、中国における習近平の強権体制の性格を理解する上でも重要な鍵なのではないかと考えられる。論文は以下のような構成からなる。

はじめに：革命暴力の3段階と2形態

1. 革命暴力の実態：ソ連と中国
2. マルクス・エンゲルスの暴力論
3. レーニンの暴力論
4. スターリンの暴力論
5. 毛沢東の暴力論

結びに代えて：革命暴力と社会主義革命をどう見るか